

## 和歌山県名匠

おお かわ おさむ  
大 川 治

### ■経歴及び業績

昭和11年新宮市で生まれる。祖父の代から鍛冶職であった家系に生まれ、17歳の時、父の大川啓氏の厳しい指導で、鍛冶職の道に入る。

熊野地方の鍛冶の伝統は古く、最盛期には、新宮市内で約30軒の鍛冶屋があった。しかし、山林業の衰退やチェーンソー等の機械化が進むにつれて、鍛冶屋は減少し、現在では氏だけが鍛冶職人として伝統の灯を守り続けている。

鍛冶の工程は、刃物地鉄を所定の大きさに切断し、刃の部分となる鋼を加えてから、製品の形に整えていき、グラインダー等で形を仕上げる。99%完成したら、炭火で熱し、水で急激に冷やして硬くしていく焼き入れを行い、最後は、砥石を使用して刃付けを行い完成させる。どの作業工程も、微妙な加減で仕上がりの質が大きく違ってくる。

氏の製品は、オーダーメイドものが多く、使用する人に応じた形や重さ、性能や耐久性を常に考えながら製作し、長年の経験で体得した感覚と熟練した技術は、まさに匠の技である。

平成14年に、野鍛冶刃物は県知事が指定する「県郷土伝統工芸品」に選定されている。



職 種：鍛冶職